

あいのり

Monthly

2023.10.31



PARIS MIKI ASSET MANAGEMENT

10月のマーケット概要

10月のマーケットも米国長期金利の動向に一喜一憂する展開となりました。月初に米長期金利が上昇する中、10月7日にハマスとイスラエルとの地政学リスクが高まったことで一時金利が弱含み、同時に株式市場は上昇、その後原油が強含むと再度金利が上昇し始めると米10年債金利が5%を試す展開となりました。局面が変化し始めたのは10月19日、パウエル議長のNY経済クラブでのスピーチの内容から7月の利上げが最後であった可能性が高まったことで、以降月末にかけて5%手前の狭いレンジで保ち合いが続き、このように米長期金利が高値圏で推移する中、株式市場は1か月を通じて軟調に推移し、月末と翌月11月初の日米の金融政策決定を控えていたこと、米国投信の月末需給要因も重なり月末にかけ大きく売られました。

月間の騰落率は、日経平均が▲3.1%、NYダウが▲1.3%、S&Pが▲2.5%、ナスダック100が▲2.5%と大方3か月連続下落し今年の高値から▲7~10%の水準まで下落しました。

月末に発表された日銀金融政策決定会合では、YCC運用を再修正し、長期金利の1%超えを容認することを決定する一方、大規模金融緩和は継続することが確認されると植田総裁の会見後の日経平均先物は大きく上昇はじめました。

また翌日1日のFOMCでマーケットは、米国の利上げ局面が終了したとの認識から、これまでの金利面の逆風が止んだため、米長期金利が4.9%から4.7%へ一気に下落すると同時に米国株を中心に大きく買われてきています。

コードファンド

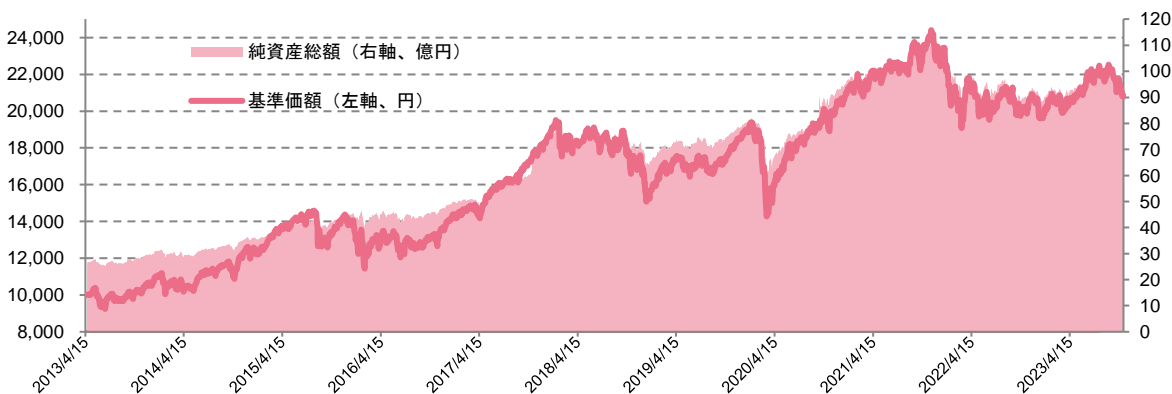
変幻自在ずーっとおまかせ

【10月の運用コメント】

基準価額は月間で▲4.0%となり、年初来の上昇率は、+5.5%となりました。

9月はキャッシュ比率を一時的に17%へ増やしておりましたが、今回は下落したところで日本株ファンドを組み入れていきました。具体的には、Nippon Growthファンドを7%新規組み入れ、シンプレクス中計ファンドを2%追加しました。これにより、日本株ファンドの比率が約60%となっております。月末のキャッシュ比率は9%へ減少しております。

基準価額と純資産総額の推移



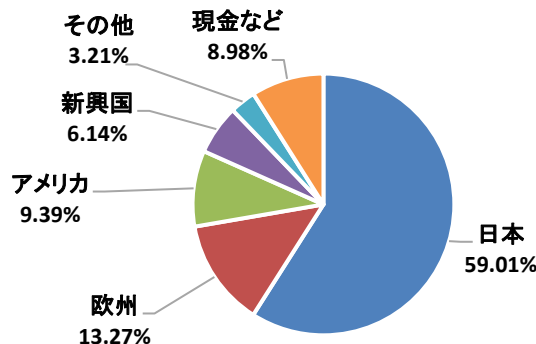
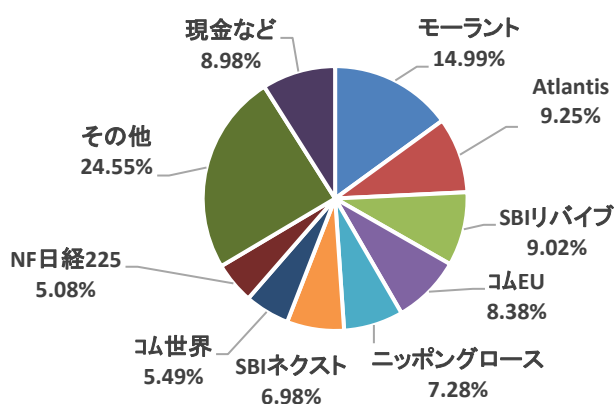
組み入れファンドTOP5 基準価額の前月比

モーラント	-2.89%
Atlantis	-8.70%
SBIリバイブ	-4.79%
コムジェストEU	-2.53%
ニッポングロース	-6.47%

コードファンド概況

基準価額	20,784円	信託期間	無期限
純資産総額	9,302百万円	決算日	毎年2月25日 (休業日の場合は翌営業日)
設定日	2013年4月15日		

資産構成比率(組入ファンド全19本)(左:国別、右:ファンド別)



期間別騰落率(%)

1か月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
-4.04%	-6.19%	1.48%	3.30%	8.81%	23.97% (複利年率) (4.39%)	103.21% (複利年率) (7.34%)	107.84% (複利年率) (7.18%)

ファンドにかかわる費用

運用管理費用
(信託報酬)

年率1.10%(税抜き1.0%)

組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.75±0.5%(税込/概算)

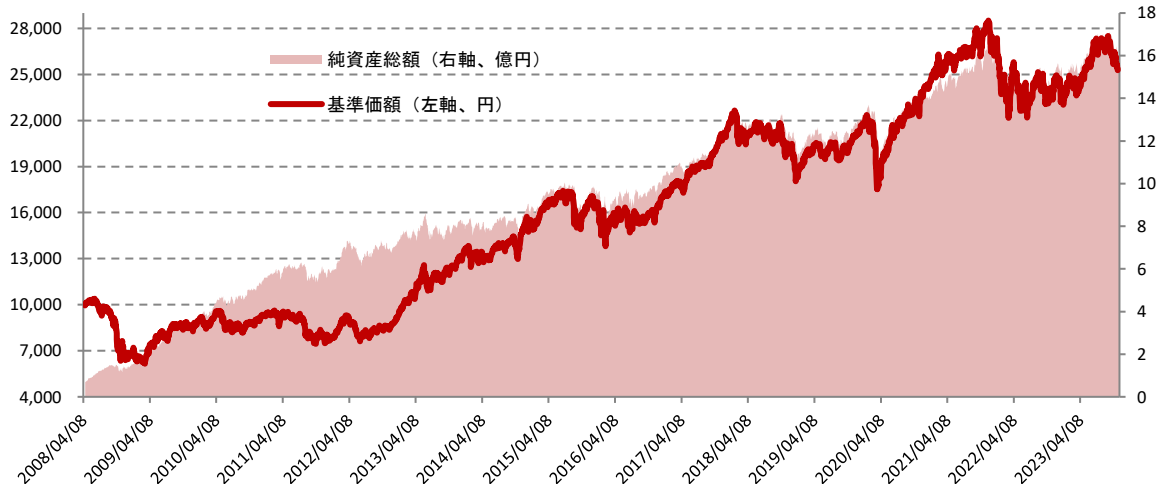
浪花おふくろファンド

じっくりどっしり長期運用

【10月の運用コメント】

基準価額は月間で▲3.3%となり、年初来の上昇率は+8.2%となりました。9月はキャッシュ比率を一時的に23%へ増やしておりましたが、今月は下落したところでシプレクス中計ファンドを12%、TOPIXを5%追加組み入れる一方、今後の日本の長期金利の趨勢的な上昇を見込み、中小型株式中心のChikaraファンド（旧クーブランド・カーディフ）は全売却（▲7%）しました。これにより、日本株ファンドの比率が約50%となりました。また調整局面では2Xideasファンドを4%追加し、月末のキャッシュ比率は約9%へ減少しております。

基準価額と純資産総額の推移



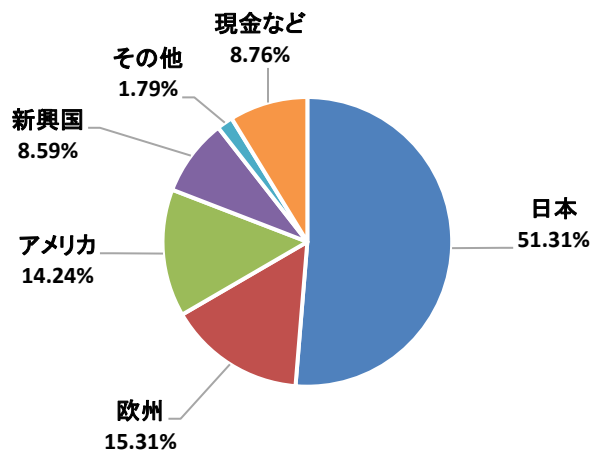
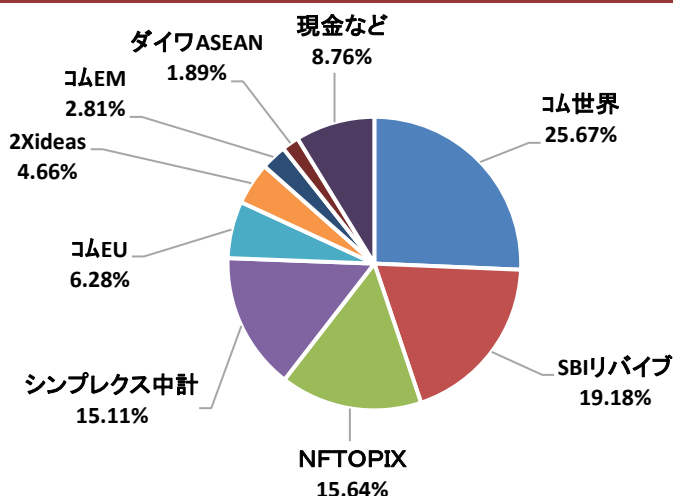
組み入れファンドTOP5 基準価額の前月比

コムジェスト 世界株式	-1.86%
SBIリバイブ	-4.79%
NFTOPIX	-2.92%
シプレクス中計	-5.50%
コムジェストEU	-2.53%

浪花おふくろファンド概況

基準価額	25,282円	信託期間	無期限
純資産総額	1,572百万円	決算日	毎年3月3日
設定日	2008年4月8日		(休業日の場合は翌営業日)

資産構成比率（組入ファンド全8本）（左：国別、右：ファンド別）



期間別騰落率 (%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
-3.36%	-5.90%	2.44%	6.16%	12.54%	27.93%	101.56%	152.82%
					(複利年率) (5.05%)	(複利年率) (7.26%)	(複利年率) (6.14%)

ファンドにかかわる費用

運用管理費用 (信託報酬)	年率0.99% (税抜き0.9%) 組み入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.65±0.5% (税込/概算)
------------------	---

コドモファンド・浪花おふくろファンドにかかわる共通のその他費用・手数料

信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

設定・運用・販売は株式会社パリティアセットマネジメント／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2727号
※比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

組入れファンドの投資銘柄

◆組入れファンドのうち、公開されている投資銘柄の組入れ比率TOP10を記載しております。

※TOP5しか公開されていないファンドはTOP5を記載しております。

◆トリゴン、シンプレクス中計、ピクテ・ゴールドは投資銘柄が公表されていないため、投資セクター比率を記載しております。

SBIジェイリバイブ	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
サイゼリヤ	日本	3.92%
M C J	日本	3.48%
ドウシシャ	日本	3.35%
日精エー・エス・ビー機械	日本	3.32%
デクセリアルズ	日本	3.32%
東京精密	日本	3.31%
藤森工業	日本	3.10%
レック	日本	3.05%
大塚商会	日本	3.03%
物語コーポレーション	日本	2.79%

モーラント・ライト	組入れ	コドモ
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	3.40%
三井住友フィナンシャルグループ	日本	3.30%
Inpex	日本	3.20%
本田技研工業	日本	3.20%
第一生命ホールディングス	日本	3.10%
フジ・メディア・ホールディングス	日本	3.10%
三井住友信託銀行	日本	2.90%
関電工	日本	2.50%
コンコルディア・フィナンシャルグループ	日本	2.20%
MS&ADホールディングス	日本	2.20%

SBIネクストジャパン	組入れ	コドモ
トランザクション	日本	3.93%
トリケミカル研究所	日本	3.73%
前田工織	日本	3.58%
シグマクシス・ホールディングス	日本	3.56%
トーカロ	日本	3.55%
メック	日本	3.53%
ジャパンマテリアル	日本	3.34%
寿スピリッツ	日本	3.29%
MS - J a p a n	日本	3.24%
N I T T O K U	日本	2.94%

Atlantis	組入れ	コドモ
コメ兵	日本	4.00%
三井物産	日本	3.70%
ジャパンマテリアル	日本	3.60%
マークライنز	日本	3.60%
三井住友フィナンシャルグループ	日本	3.40%

ニッポングロース	組入れ	コドモ
伊藤忠商事	日本	7.49%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	6.44%
三井住友フィナンシャルグループ	日本	6.36%
三菱商事	日本	5.56%
オリックス	日本	4.51%

SBIジェイケール	組入れ	コドモ
ビーイングホールディングス	日本	3.88%
テンポイノベーション	日本	3.71%
ボードルア	日本	3.56%
コアコンセプト・テクノロジー	日本	3.50%
システムサポート	日本	3.44%
ステムセル研究所	日本	3.24%
マネジメントソリューションズ	日本	3.17%
グローバルセキュリティエキスパート	日本	3.15%
ギフトホールディングス	日本	3.10%
TWOSTONE & Sons	日本	3.09%

シンプレクス中計	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
電気機器	9.12%	
機械	9.11%	
卸売業	7.25%	
情報・通信業	6.67%	
非鉄金属	6.17%	

NF日経225	組入れ	コドモ
ファーストリテイリング	日本	10.44%
東京エレクトロン	日本	6.25%
ソフトバンクグループ	日本	3.87%
アドバンテスト	日本	3.22%
KDDI	日本	2.84%
信越化学工業	日本	2.35%
ダイキン工業	日本	2.28%
ファナック	日本	1.92%
TDK	日本	1.76%
テルモ	日本	1.72%

NFTOPIX	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
トヨタ自動車	日本	4.33%
ソニーグループ	日本	2.68%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	2.36%
キーエンス	日本	1.77%
日本電信電話	日本	1.61%
三井住友フィナンシャルグループ	日本	1.54%
三菱商事	日本	1.48%
日立製作所	日本	1.42%
三井物産	日本	1.31%
東京エレクトロン	日本	1.27%

トリゴン	組入れ	コドモ
Financials	34.3%	
Consumer	14.1%	
Health Care	10.1%	
Energy	8.4%	
IT	7.0%	
Materials	6.7%	
Telecoms	4.9%	
Industrials	4.6%	
Utilities	4.2%	
Real Estate	1.1%	

コムジェストEU	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
ノボ・ノルディスク	デンマーク	8.70%
ASMLホールディング	オランダ	7.30%
リンデ	イギリス	5.00%
エシロールルックスオティカ	フランス	4.90%
アクセンチュア	アイルランド	4.60%
LVMHモエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン	フランス	4.00%
アルコン	スイス	3.80%
ストロマン・ホールディング	スイス	3.50%
ダッソー・システムズ	フランス	3.30%
ハイネケン	オランダ	3.00%

Memnon	組入れ	コドモ
Shell	ヨーロッパ	9.50%
Continental	ヨーロッパ	6.40%
Kering	ヨーロッパ	6.20%
Merck	ヨーロッパ	6.10%
Carrefour	ヨーロッパ	6.00%

コンウェーブ・トランジション	組入れ	コドモ
First Quantum Minerals	カナダ	7.71%
Teck Resources	カナダ	6.06%
Alcoa Corp.	アメリカ	5.56%
Lundin Mining	カナダ	4.73%
Atalaya Mining	カナダ	4.03%
Pan American Silver	カナダ	4.00%
Ivanhoe Mines	カナダ	3.84%
Capstone Copper	カナダ	3.45%
ERO Copper Corp.	カナダ	3.26%
Physical Platinum Invest.	ジャージー	2.86%

2Xideas	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
Partners Group	ヨーロッパ	1.40%
Morningstar	アメリカ	1.40%
Cyber Ark Software	ヨーロッパ	1.30%
The NewYorkTimes	アメリカ	1.30%
Tradeweb	アメリカ	1.30%
Epiroc	ヨーロッパ	1.30%
Shenzhou	EMアジア	1.30%
PTC	アメリカ	1.30%
Constellation Brands	アメリカ	1.30%
Watsco	アメリカ	1.30%

ストーン・ヘイジ	組入れ	コドモ
Alphabet	アメリカ	7.40%
Microsoft	アメリカ	6.70%
Cadence	アメリカ	5.10%
Accenture	ヨーロッパ	4.90%
Zoetis	アメリカ	4.30%
EssilorLuxottica	ヨーロッパ	3.90%
S&P Global	アメリカ	3.80%
Visa	アメリカ	3.80%
Verisk Analytics	アメリカ	3.80%
L'Oreal	ヨーロッパ	3.60%

コムジェスト世界	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
マイクロソフト	アメリカ	7.10%
イーライリリー	アメリカ	6.90%
リンデ	イギリス	4.90%
ASMLホールディング	オランダ	4.60%
ロリアル	フランス	4.10%
ジョンソン・エンド・ジョンソン	アメリカ	3.80%
エシロールルックスオティカ	フランス	3.80%
インテュイット	アメリカ	3.80%
台湾セミコンダクター (TSMC)	台湾	3.50%
LVMHモエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン	フランス	3.40%

コムジェストEM	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
台湾セミコンダクター (TSMC)	台湾	5.80%
フォメント・エコノミコ・メヒカノ	メキシコ	5.70%
サムスン電子	韓国	5.00%
HDFC銀行	インド	4.60%
マルチ・スズキ	インド	4.50%
ネットイース(網易)	中国	4.50%
デルタ電子	台湾	4.40%
ウォルメックス	メキシコ	4.00%
メルカドリブレ	アルゼンチン	4.00%
インナ・モンゴル・イーリー・インダストリアル・グループ	中国	3.90%

VNM	組入れ	コドモ
VINHOMES JSC	ベトナム	7.29%
VIETNAM DAIRY PRODUCTS JSC	ベトナム	7.28%
VINGROUP JSC	ベトナム	6.83%
HOA PHAT GROUP JSC	ベトナム	6.59%
BANK FOR FOREIGN TRADE OF VIETNAM JSC	ベトナム	6.52%
SSI SECURITIES CORP	ベトナム	5.75%
MASAN GROUP CORP	ベトナム	4.89%
VNDIRECT SECURITIES CORP	ベトナム	4.39%
NO VA LAND INVESTMENT GROUP CORP	ベトナム	3.22%
DUC GIANG CHEMICALS JSC	ベトナム	2.92%

ダイワ アセアン	組入れ	コドモ 浪花おふくろ
COM7 PCL-F	タイ	7.17%
HIBISCUS PETROLEUM BHD	マレーシア	5.48%
ERAJAYA SWASEMBADA TBK PT	インドネシア	4.81%
PENTAMASTER CORP BHD	マレーシア	4.37%
JAPFA COMFEED INDONESIA-TBK PT	インドネシア	4.16%
WILCON DEPOT INC	フィリピン	3.71%
VITROX CORP BHD	マレーシア	3.66%
BFI FINANCE INDONESIA TBK PT	インドネシア	3.56%
SYARIKAT TAKAFUL MALAYSIA KE	マレーシア	3.43%
INDUSTRI JAMU DAN FARMASI SI	インドネシア	3.25%

ピクテ・ゴールド	組入れ	コドモ
金	100%	

新 NISA のひみつ

いよいよ来年一月から新 NISA がはじまります。今回の新 NISA では期限が無期限になり、さらに合計の投資金額もかなり拡充されましたので、是非ご利用いただきたいですね。パリミキアセットマネジメントとしても、皆様に新年から新 NISA をご利用いただけるよう現在準備を進めております。ご利用の準備が整い次第ご連絡させていただきますのでもうしばらくお待ちください。コドモファンド、浪花おふくろファンドについては「成長投資枠」を使って年間最大 240 万円までご投資いただけます。また、「積立」につきましても「成長投資枠」をご利用いただけますので、引き続き積立もご継続いただければと思っています。

このように新 NISA はかなりの優遇税制であるということです。そこで個人的に疑問に思ったことがあります。それは「財務省がこの制度改革をよく承認したな？」ということです。

ご存じの通り、財務省の財政健全化に対する執念は異常に強いのです。例えばデフレ不況に落ち込み始めた 1997 年の橋本政権時代、あろうことかそんな時に消費税を 5% にアップさせ、その後日本がデフレスパイラルに落ち込む元凶をつくってしまっています。また、長期政権だった第二次安倍政権の必死の抵抗にもかかわらず（一度はサミットまで利用して増税延期をしています）、結局二度も消費税を増税させ、せっかくのデフレから脱却のタイミングを逃す結果となってしまいました。

ここまで、財政再建に拘る財務省が、しかもコロナ禍で財政が悪化した中で、今回の新 NISA の優遇税制を OK したのは何故なのでしょう。確かに「貯蓄から投資へ」という政府の掛け声は以前からあるものの、長期政権で絶大な権力を持っていた安倍首相でも抗えなかった財務省を承認させたのは誰なのか、またどんな目的だったのでしょうか？

ここからはあくまでも私の推論でしかないのですが、フィクションとしてお読みいただければと思います。財務省は国内では絶大な権力を持っています。当然、予算を牛耳っていることも大きいですが、何より税務署を傘下に持っていることも見逃せません。どんなにクリーンな会計を志している政治家であっても、それなりの権力を持つためには、いろいろと不明瞭なお金の出入りがあるのが政治の世界。一旦不正会計などでマスコミにリークされた暁には、政治生命の危機に直面してしまいます。そんなわけで、国内の政治力で今回の制度改革が進んだとはとても思えません。日本の財務省との関係で考えると、アメリカサイド（とはいっても様々な勢力がありますが）くらいしか考えられないですね。では何故、このタイミングでアメリカが日本の新 NISA を推進する必要があったのでしょうか。

近年投資に関して気になることがあります。それは書店で並んでいる多くの書籍や、ネット上の投資に関する情報のほとんどがアメリカ株の ETF（パッシブ投資）を推奨しているということです。ですから、このまま新 NISA が始まると、大量の資金が日本からアメリカに流れることになります。



小泉純一郎元首相

出典：Wikipedia より

小泉内閣総理大臣記者会見【衆議院終了を受けて】

内閣内閣広報室 権威官邸ホームページ, CC BY 4.0

<<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>>

以前にも似たようなことがありました。「自民党をぶっ潰す！」と郵政民営化を唯一の公約に解散に突き進んだ小泉首相。彼としては郵便局（全国郵便局長会）を勢力圏にしていたライバルである経世会（旧竹下派）の力を削ぐ戦略だったわけですが、郵便局の傘下にある 350 兆円の資産の解放を狙っていたアメリカと利害が一致、アメリカの絶大な支援もあり郵政民営化を実現しました。今回も、2000 兆円を超える日本の個人金融資産、特に 1100 兆円を超える現預金がターゲットであるのは間違いないでしょう。

既に何度かレポートでお話ししている通り、これからの長期でインフレが続く時代はアクティブ投資が優位な時代です。ましてアメリカは株もドルも割高であることを考えると、この策略に乗っての米株投資（しかもパッシブ）は最悪の選択であると思っています。日本の皆様が新 NISA を使って健全な長期投資を行っていただけるよう祈るばかりです。



多根幹雄

アジアの夜明け！？それとも・・・ ～企業比較事例紹介：半導体関連企業の攻防など～ <コムジェスト社>

コムジェスト世界株式ファンドのポートフォリオマネージャーであるザック・スメルチャクさんから、「11月に日本に行くので、日本の皆さんに直に話がしたい」との依頼があり、本当に生の対面セミナーが実現しました。
リチャード・ケイさんにも無理を言ってご参加いただき、通訳で渡邊さんも同席いただきます。
是非ご来場ください。



アナリスト兼ポートフォリオマネージャー
ザック・スメルチャク氏



アナリスト兼ポートフォリオマネージャー
リチャード・ケイ氏

<東京>

開催日時
2023年

11月24日（金）
18：30～20：00

対面参加

定員：22名 対面セミナー後の交流会
参加費：無料 参加費：2,000円程度

ネット参加

定員：30名 参加費：無料

会場

東京スクエアガーデン6階 京橋環境ステーション研修室
東京都中央区京橋三丁目1番1号東京スクエアガーデン6階
京橋環境ステーション内



マーケティング&IRマネージャー
渡邊 敬氏

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。
投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

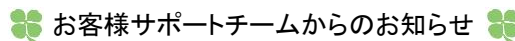
ファンドにかかわる費用

当社が扱う投資信託に、購入・換金手数料および信託財産留保金はありませぬ。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は株式会社パリミキアセットマネジメントが運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当社でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料中に示された数値は、作成基準日現在において入手可能なデータを参照し、弊社にて計算しております。

パリミキアセットから大切なお知らせ



【特定口座の源泉徴収区分の変更について】

特定口座をご利用いただいているお客様の、2024年適用分源泉徴収区分の変更受付を開始しております。「源泉徴収あり・なし」の変更をご希望のお客様は、2023年12月1日（金）までに、お電話にて「特定口座源泉徴収選択届出書」をご請求くださいますようお願い致します。

■ご注意■

- ・源泉徴収区分の変更は、2024年中の解約や配当金等の受入れの受渡完了後は変更できません。
- ・源泉徴収区分は、お客様からのお申し出がない場合は、前年の区分が継続されます。

【年内に解約代金の受取りを希望される方へ】

ご解約受付日：2023年12月22日（金）15：00受付分までとなります。
（約定日：2023年12月26日（火）・入金日：2023年12月29日（金））

【毎月つみたてスケジュール】

次回引落日は、12月5日（火）です。
2024年1月分金額変更・中止・再開締切日・・・2023年12月20日（水）
2024年2月分新規・口座変更締切日・・・2023年12月28日（木）
※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話・マイページ上（再開を除く）でも承っております。

株式会社パリミキアセットマネジメント
（受付時間：平日9時～17時）
お客様専用通話料無料ダイヤル：0800-5000-968
E-mail: support@pmam.co.jp



パリミキアセット誕生 & 「JAPAN IS BACK」出版記念パーティー



2023年10月6日（金）、7日（土）に、パーティーを開催いたしました。本格的なパーティー形式でここまでの規模は2016年の「クローバー・アセットマネジメント10周年 & コドモファンド3周年祭」以来です。

6日の東京会場は、茅場町KABUTO ONEに新しくできたブックカフェカブルで、昼間はブックカフェ、夕刻からは貸し切りも可能なイベント会場になります。今回は、参加者50名を予定していましたが、ファンド仲間と同時に取引先様もお招きしましたので、最終的には70名の参加者となり、一部の方々は立ち見になり大変失礼いたしました。

18:30からパーティー開始、はじめにさわかみホールディングス 代表 澤上篤人様からご祝辞をいただきました。澤上さんはクローバー・アセットマネジメント（浪花おふくろ投信、楽知ん投信、かいたく投信）の生みの親、2013年に新生クローバーになってからも、セミナーやイベントの協力などいろんな面で弊社を後押ししてきていただきました。

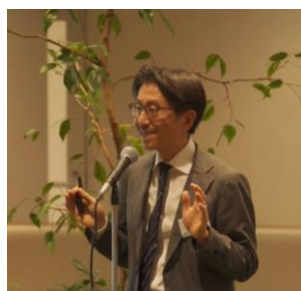
お話は、「金融ビジネスと資産運用ビジネスは違う。今はまだ残っている大規模な金融緩和の影響が剥がれ落ち、自分たちの金儲けの金融ビジネスが崩壊し、我々のやってる本物の資産運用ビジネスの真価が問われる時代になる」との力強いものでした。

次に、来年4月に、当社を子会社として受け入れていただく株式会社パリミキホールディングス社長の澤田様よりご祝辞をいただきました。パリミキの先代会長が若い時から運用ビジネスに興味を持ち、1980代にはすでに将来のために香港に資産運用のオフィスを作ったりして、その後、澤上さんとの出会いがあり、さわかみファンドの創設にも社員を外向させ、支援をした話、その後、縁あってクローバーを引き受けることになった、そうした長い歴史が、今回のパリミキアセットマネジメント誕生に繋がっていることなどの説明がありました。その渦中にいた人間にとっては、懐かしいともいえる話でした。



私（磯野）から、祝辞に対するお礼と、新社長として、今後も「あいのり投資」の仲間を皆様のご協力を得ながら拡大していきたい「1990年代後半に、パリミキ社内で、30年後の企業の未来像を議論しようというプロジェクトがあり、その中にも資産運用ビジネスの案もありました。「パリミキは、かつて眼鏡屋だった」とのタイトルでレポートをまとめたのを覚えています。今回の「パリミキアセットマネジメント」への名称変更は、その第一歩かもしれません」との抱負を語らせていただきました。

乾杯のご発声は、クローバー・アセットマネジメントの旧株主代表 武藤様にお願いしました。「豊田自動織機が、現在世界的企業のトヨタ自動車の親会社だった」というように、今後このパリミキアセットが業容を拡大し、「パリミキ＝資産運用会社」となる事を期待しています。」とのお言葉をいただきました。



乾杯が終わり、ファンドマネージャー 宇野から、「これからはニッポンが面白い」と題していろんな条件から考えて今後日本株が面白いという話をさせて頂きました。歴史的に非常に珍しいタイミングでデフレからインフレへの長期サイクルが始まったばかりで、来年の新NISAの開始や、PBR1倍割れの企業への改善要請など日本株が注目される要素がいっぱいです。

続いて、多根会長からは、新著「JAPAN IS BACK 新たな奇跡が始まった」の紹介です。

本の中にも一部書いている干支の60年サイクル（前半の30年と後半の30年）を日本現代史に重ね合わせて、これからの日本の奇跡の復活を予見しました。日本人にとっては心躍る話ですし、二人の話はすでに最近の株式相場にも表れ始めてる感じがしています。

この後、ご参加の皆様にはお食事と飲み物を楽しんでいただきました。「美味しい！」と評判は良かったです。私は参加者の皆様一人一人に感謝をお伝えして回ったのですが、パリミキアセットの誕生を心から喜んでいただいているのがひしひしと伝わってきました。中には、わざわざ一泊して塩尻から来られたお客様もあり、大感激です。



最後には、2008年に浪花おふくろファンド（パリミキアセットマネジメントの源流）を立ち上げたメンバー 中井様に締めのご挨拶をいただきました。

「成績がいいのは当たり前やけど、セミナーの後の交流会で社長が自分でパン焼いてきて、森さんがお惣菜作ってみんなで飲み会、ジュネーブやパリ、島根の奥出雲にもみんなでツアーに行きました。会長所有のたねころ山農園で遊んだり、こんなに楽しませてもらえるなんて、こんなファンド他にないよ。あんまり大きくなってもらいたくないけど、まあ 3000 億円くらいまでお願いします。」と豪快で迫力のあいさつに盛大な拍手で幕を閉じました。

翌 10 月 7 日は、大阪中央公会堂での開催でした。こちらは参加者 50 名ほとんどがファンド仲間の皆さんです。大阪ではこの会場は浪花おふくろファンド時代からのなじみのある場所でクローバー時代にも 2 回大型イベントを開催しています。コロナ禍でセミナーが途絶えていたので 4 年ぶりくらいの方も大勢応援に駆けつけてくださいました。

はじめに、さわかみホールディングスの澤上さん、パリミキホールディングスの澤田社長の映像をご覧いただいた後、ファンドホルダー代表としていつもお世話になっている天本様から祝辞をいただきました。「我が町投信の浪花おふくろファンドから始まって、このバスはリーマンショックやパンデミックなどの様々な悪路を走破してここまで来ました。スイスへ、パリへ、奥出雲、またたねころ山でのイベントなどもあり、長期投資は、難しくなく遊びながらの勉強を楽しむことが王道です。今日からは、ヴィンテージバス「あいのり号」に乗車し、パリミキアセットマネジメントと共に長期投資の道を進んでいきたいと思えます。発車オーライ！」



乾杯の音頭は、いつもセミナーの交流会の段取りなど、何でもお手伝いいただいている大井さんをお願いしました。「10月1日は、パリミキアセットの誕生の日なんですが、日本酒の日でもあるんです。」で、笑いをとって「カンパイ！」ファンドマネージャー宇野の話、多根会長の話は東京と同じですが、大阪の方が格調高く聞こえましたね。会場のせいでしょうか。



最後の締めは、前日の東京のパーティーで締めのご挨拶を頂いた浪花おふくろ投信の中井さんの相方、石津さんです。浪花おふくろファンドをスタートした時に投資の土壌づくりに「ひよこクラブ」という勉強会を作って普及活動をしたお話。

「大阪のセミナーでは、伝統的に新しいお客さんを連れてきて、ファンドの方が説明するんじゃなしに、いいと思って入ってきたファンド仲間が先輩として、教えてあげる伝統がある。これからもみんなで頑張って進めていきましょう」との暖かい応援メッセージをいただきました。

この二日間で 120 人くらいの皆様と直接コミュニケーションすることができました。皆さん熱心に聞いていただきありがとうございます。もちろん、こちらからお願いするまでもなく「応援するぞ」という姿勢がありがたかったです。

今回、東京、大阪両会場とも、通常のセミナーと違ってプロのケータリング会社にサービスをお願いしたのですが、料理や飲み物、またそのサービスも納得のいくものでした。業者さんの方も「新しい門出のイベントをお手伝いできて良かったです。皆様とお客様の信頼関係に感動しました」なんてお言葉もいただきました。いろんなイベントやってきましたが、そこまで言われたのは初めてですね。ありがとうございます。



磯野 昌彦